Solfeggio Killer — ユーザーマニュアル

バージョン 1.3.2 · By Artemiy Haydron · 2026年11月

1.3.2 の新機能

- **11th・13th コード。** ウィンドウにドロップした MIDI ファイルから、11、m11、13、maj13、m13、7#11、maj7#11 のコードも分かるようになりました。ふだん弾かれる形（5度なし、13th は 11th もなし）でも大丈夫です。これまでは近いセブンスや 9th コードになっていました。
- 新しいコードはすべての楽器で鳴ります：鍵盤では軽いボイシング（5度なし、11 コードは 3 度もなし）、ギターとウクレレではシンプルなフォーム、ベースはいつもどおりルートと5度。キー外のコードの種類メニューから手で選ぶこともできます。
- **コード進行と DAW の小節。** DAW が小節線よりほんのわずか（1 ミリ秒未満）遅れて再生を始めると（ほぼ毎回そうなります）、最初の打鍵が抜け、シンプルなスタイルでは最初のコードがまったく鳴らず、進行が 2 つ目のコードから始まるように聞こえました。今は最初のコードがすぐに鳴り、小節前のプリロールで最後のコードが一瞬鳴ることもなくなりました。「DAWと一緒に再生」の横に新しい「▾」：プロジェクトの小節どおり（DAW の 1 小節目が最初のコード、これまでどおり）か、DAW を再生するたびに最初のコードから（どこで再生を押しても）。Pro Tools で進行が 1 コードずれる問題も直りました。
- **新しいバージョンのお知らせ。** サイトでアップデートが出ると、セッションで初めてウィンドウを開いたときにカードが表示されます：「サイトへ」（ダウンロードページ）と「新機能」。×か、どこかをクリックすると閉じます。「今後表示しない」にすると、そのバージョンについては表示されません（次のバージョンでは表示されます）。ヘッダーの「アップデート」リンクはそのまま残ります。
- **五度圏のヒントがダイアトニックと同じ動きに。** 黄色の枠は、進行で選んだコード（選んでいなければ最後のコード）の次に合うコードを示します。コードにマウスを合わせても、ヒントがそのコードに切り替わることはなくなりました。枠の意味は円の上にも表示されます。

1.3.1 の新機能

- **音量がすぐ見える。** コード・ベース・メロディーの音量、リバーブ、ドラムの音量と複雑さ、オートメロディーの密度と複雑さが、詳細モードに隠れなくなりました。スライダーをダブルクリックすると初期値に戻ります。
- **ダイアトニックの「+」。** コードにマウスを合わせると、角に「+」が出ます。クリックするとそのコードが進行の最後に入ります（これまではダブルクリックかドラッグが必要でした）。
- **ダイアトニックの枠の意味。** タブの右に説明が表示されるようになりました：黄色の枠は次に弾くと合うコード、緑の枠は今鳴っているコードです。黄色の枠は減りました：トライアドの行だけ（セブンスのコードを選んでいるときはセブンスの行）です。
- **右クリックなしでコードのメニュー。** 進行で選んだコードに「…」ボタンが付きました。右クリックと同じメニュー（コードの種類、転回形、ベース、長さなど）が開きます。
- **「結果」タブは「弾き方」に名前が変わり**、右に楽器メニューが付きました：ピアノ、ギター、**ウクレレ**（通常の G-C-E-A チューニングのコードフォーム）、**ベース**（ベースラインをタブ譜と指板で表示）。
- **「楽譜」タブでギター。** ピアノ譜のほかに、ギターのタブ譜やフィンガースタイル編曲（メロディー、ベース、アルペジオを 1 本のギターで）を選べます。調号、符尾、休符は記譜のルー

ルどおりに置かれます。
- **わかりやすい表示。** 進行のコードの長さを言葉で表示（「1 小節」「6 拍」）。A B C ボタンに「セクション」の見出し。名前の変更：「保存」→「プリセットを保存」、「別名で保存…」→「新規保存…」、「ランダム」→「ランダム進行」、「ヒューマナイズ（タイミング）」と「ベロシティのばらつき」→「ヒューマナイズ：タイミング」と「ヒューマナイズ：強さ」。
- **トピック別のヘルプ。**「?」→「ヘルプ」：左にトピックの一覧、右には選んだトピックの文章だけが表示されます。クイックツアーは短くなり、「再生」ボタンで終わります。
- **細かな改善。**「再生」ボタンを色で目立たせ、「クリア」は誤って押さないよう右へ移動しました。オフのドラムとオートメロディーは薄く表示されます。ウィンドウサイズは「スキン」ウィンドウで選びます（ヘッダーのパーセントボタンはなくなりました）。「このコンピュータを解除」は確認してから解除します。

1.3 の新機能

- **曲からのコードがより正確に**：テンポ、キー、コードの長さがずっと正しく分かるようになりました。コードは小節線で変わり、余計に細切れになりません。
- **曲のループ**：曲が同じ 4 つまたは 8 つのコードを繰り返しているなら、コード進行はそのコードだけになり、ひと回りの頭から始まります。
- **曲のパートをセクション A・B・C に**：コードの違う A メロ、サビ、ブリッジがそれぞれのセクションに入ります（セクションが使われているときは、先に確認します）。
- 拍子の隣の**「×2」と「÷2」**：曲のテンポが半分や 2 倍に聞き取られたとき、コードの小節数が 2 倍や半分になります（アプリではテンポも一緒に変わります）。
- **五度圏のヒント**：円のコードにマウスを合わせるか、進行のコードを選ぶと、次に合うコードが黄色く光ります。
- これまで開けなかった MP3 も開けます。再生中のウィンドウの CPU 負荷も下がりました。

1.2.9 の新機能

- **自分のメロディー**：「メロディーのリズム」の一覧で「＋ 自分のメロディーを作る…」。グリッドに音符を描きます：鳴る位置、長さ、コードのルートからの音階の度数。メロディーはコードごとに自動で移り、キーから外れません。置いた音符はすぐに鳴ります。「マイメロディー」とプロジェクトに保存されます（9 章）。
- **CLAP 形式**（Mac、Windows、Linux。Bitwig、Reaper、FL Studio、Studio One など）。
- ウィンドウの描画が速くなり、CPU 負荷が減りました。

1.2.8 の新機能

- **手 (Beta)**：「結果」タブ（ピアノ表示）のボタン ― 鍵盤の上の両手が、コードとベースのどの音をどの指で弾くかを示します（1 親指 … 5 小指）。
- **ギターはネック全体で**：各コードに最大 10 のフォーム ― オープン、セーハあり・なし。コードの下の ‹ › で切り替え、選択はプロジェクトに保存されます。
- 「結果」：鍵盤は下に、音はそこへ落ち、進行の毎回の繰り返しで聞こえる音と必ず一致します。
- 「MIDI 出力 ▾」：パートを続けてチェックでき、メニューは閉じません。
- プラグインのウィンドウの CPU 負荷を軽減。

1.2.7 の新機能

- **パートごとの MIDI 出力**：「MIDI 出力 ▾」ボタン（プラグインとアプリ）。コード、ベース、メロディー、ドラムを別々に他のシンセへ送れ、パートごとに MIDI チャンネルを持ちます。アプ

リでは各パートにコンピュータの MIDI 出力も選べます（外部シンセ用）。初期状態はオフ（第10章）。
- **新しいスキン 2 つ**：「Liquid Glass」（Apple 風のガラス調）と、6 色を自分で選ぶ「マイ」（第4章）。

1.2.6 の新機能

- **DAW のクラッシュを修正**（Logic など、AU 形式）：音色やスタイルのリストを開いたままプラグインのウィンドウを閉じたとき。
- 検索リストが小さなウィンドウで切れなくなり、Esc で閉じられます。
- プリセットやプロジェクトを読み込んだあと、「コンステレーション」とピアノ／ギターのボタンが更新されます。
- スキンの変更が、開いているすべてのプラグインウィンドウにすぐ反映されます。
- Logic：ドラッグしたリージョンの古いコピーはキャッシュから自動で削除されます。
- DAW から形式の合わないファイルが渡されたときは、その旨を表示します。

1.2.5 の新機能

- **ワイドなウィンドウ**：左にコード・進行・鍵盤、右にサウンド・ドラム・オートメロディ。すべてが一目で見え、 窮屈さがありません。「詳細モード」はヘッダーに移動しました。
- **星座** — 新しいタブ：ジャンルとムードでトニックの周りにコードが並びます。中央は安定、外側は大胆、 左は暗く右は明るい。「ダイナミック・スケール」は最後に弾いたコードに合うものを示します（第5章）。
- **DAW から直接オーディオと MIDI**：Logic のトラックのリージョン、Ableton のクリップ、任意のオーディオ／ MIDI ファイルをウィンドウにドラッグすると、キー・テンポ・コードを見つけます（第7章）。
- **11 種類のスキン**：ヘッダーのパレットボタンで「スキン」ウィンドウ — Graphite、ノート、Studio、Crimson、 Yams、Sakura、Deep Ocean、Obsidian、Old School、Universal、Metalic。ウィンドウサイズもここで（第4章）。
- 「結果」：鍵盤が大きく（使うオクターブのみ）、ギターのダイアグラムが正しい比率に。「譜面」はページ中央に。

1. Solfeggio Killer とは

Solfeggio Killer は、曲のデモを素早く作るためのツールです。選んだスタイルでコード進行、ベース、ドラム、メロディーを鳴らし、MIDI キーボードで弾く音（画面の鍵盤をマウスで、アプリではパソコンのキーボードで弾く音も）はキーと現在のコードに収まります。

フォーマット	ファイル	用途
AU (Audio Unit), Mac	`Solfeggio Killer.component`	Logic Pro、GarageBand
AU MIDI FX, Mac	`Solfeggio Killer MIDI.component`	Logic Pro（MIDI FX スロット：トラックの楽器を鳴らします）
VST3 — Mac, Windows, Linux	`Solfeggio Killer.vst3`	Ableton Live、Cubase、FL Studio、Reaper、Bitwig、Studio One など
CLAP — Mac, Windows, Linux	`Solfeggio Killer.clap`	Bitwig、Reaper、FL Studio、Studio One など
アプリ	`Solfeggio Killer.app` / `.exe`	DAW なしで

動作環境：macOS 11 以降（Apple Silicon と Intel）、Windows 10/11 64ビット、Linux x86-64（glibc 2.30 以降）。楽器の音はすべてのフォーマットで共有する1つのファイルです（約60 MB）。

2. インストール

Mac

1. `Solfeggio Killer 1.3.2 Mac.pkg` を開きます。
2. macOS が確認できないと表示された場合：「完了」→ システム設定 → プライバシーとセキュリティ →「このまま開く」。1回だけです（インストーラーは公証されていません）。
3. インストール先のユーザーを選び、不要なもの（AU、MIDI FX、VST3、アプリ）のチェックを外します。DAW を再起動してください。

インストーラーなし（.zip）の場合：プラグインを `~/Library/Audio/Plug-Ins/Components/`（AU）または `~/Library/Audio/Plug-Ins/VST3/` に置き、隔離属性を外します：`xattr -dr com.apple.quarantine ~/Library/Audio/Plug-Ins/Components/"Solfeggio Killer.component"`。

DAW	場所
Logic Pro、GarageBand	Software Instrument → AU Instruments → Artemiy Haydron → Solfeggio Killer
Logic Pro（MIDI FX）	MIDI FX スロット → Audio Units → Artemiy Haydron → Solfeggio Killer MIDI
Ableton Live	Plug-Ins → VST3 → Artemiy Haydron → Solfeggio Killer
Cubase、FL Studio、Reaper、Bitwig、Studio One	VST3 インストゥルメント → Solfeggio Killer（必要ならプラグインを再スキャン）

Windows と Linux

Windows：`Solfeggio Killer 1.3.2 Windows Setup.exe` が VST3 を `C:\Program Files\Common Files\VST3\` に、そしてアプリをインストールします。SmartScreen が「Windows によって PC が保護されました」と表示したら：「詳細情報」→「実行」。Windows には仮想 MIDI ポートがないため、DAW への録音スイッチは表示されません。「MIDIをドラッグ」を使ってください。

Linux：VST3 は `~/.vst3/` へ、アプリは任意の場所へ（`chmod +x "Solfeggio Killer"`）。ALSA、FreeType、Fontconfig が必要です。

CLAP（.zip / .tar.gz アーカイブ内）：`Solfeggio Killer.clap` を `~/Library/Audio/Plug-Ins/CLAP/`（Mac）、`C:\Program Files\Common Files\CLAP\`（Windows）、`~/.clap/`（Linux）に置きます。Windows と Linux では同じアーカイブのサウンドファイル `SolfeggioKiller.samples` をその隣に置いてください。

3. クイックスタート

1. 初回起動時に**クイックツアー**がウィンドウを案内します。いつでもスキップでき、「?」→「クイックツアー」で再び開けます。
2. ヘッダーでキー、モード、スタイルを選びます。
3. 進行の上の「コード進行とプリセット」の帯でメニューを開き、既成の進行を選ぶ（‹ › で順に切り替え）か、「ダイアトニック」から自分で作るか、オーディオファイルをウィンドウにドロップします。
4. DAW で再生を始めるか、▶ 再生を押します。
5. メロディーを弾きましょう。音はキーに収まります。録音するには DAW で録音を押します。



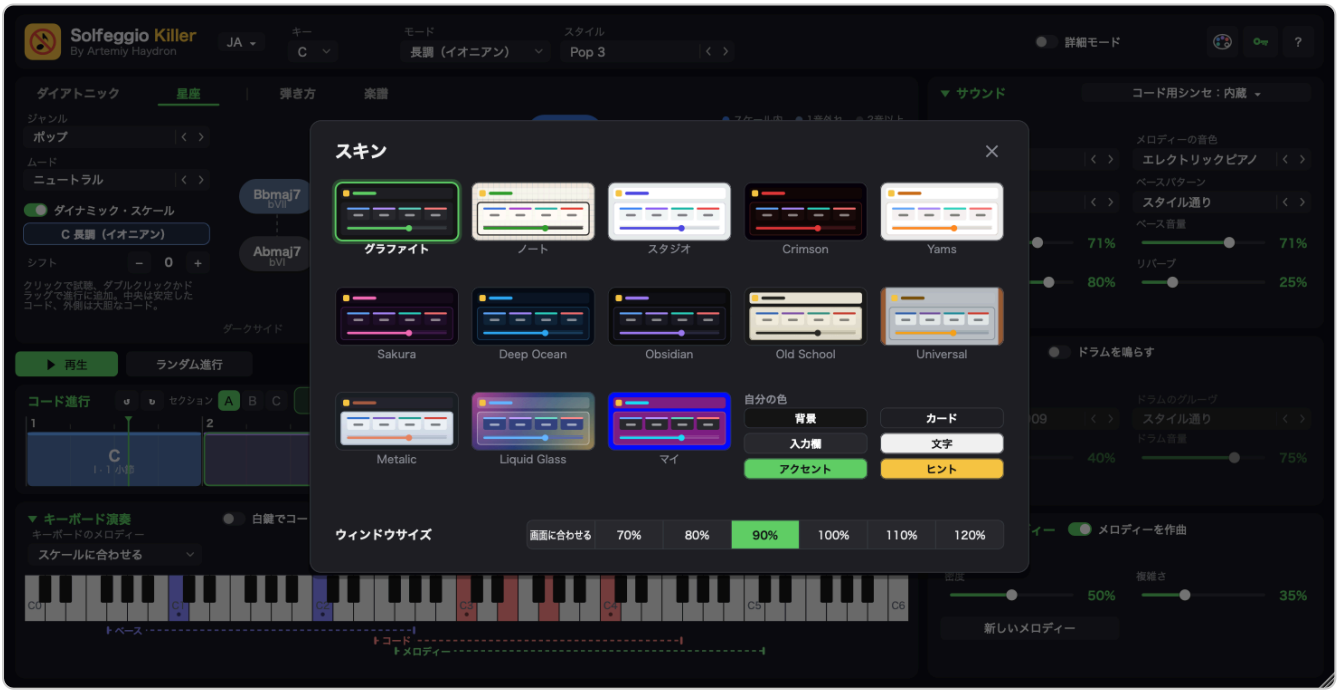
メインウィンドウ（シンプルモード）：ヘッダー、ダイアトニック、ボタン、コード進行、サウンド、ドラム、オートメロディー、キーボード。

4. ヘッダー

項目	機能
言語（JA ▾）	表示言語：English、Русский、Español、Deutsch、Français、Italiano、日本語、中文。プラグインとアプリのすべてのコピーで記憶されます
キー	主音。変えると進行全体が移調されます。詳細モード：–½ / +½ ですべてを半音移動
モード	メジャー、マイナー、ドリアン、フリジアン、リディアン、ミクソリディアン、ロクリアン、ハーモニック・マイナー、メロディック・マイナー
スタイル	コードとベースのリズム：62 の既成スタイルと自分のスタイル（一覧の一番上に User と「＋ 自分のスタイルを作る…」）。‹ › で次のスタイル
拍子（詳細）	「自動（DAW）」または 4/4、3/4、2/4、5/4、6/8、12/8
鍵、⚙、？	ライセンス、オーディオ設定（アプリ）、ヘルプとクイックツアー（ウィンドウサイズは「スキン」で）

スキン

ヘッダーのパレットボタンで**「スキン」**ウィンドウが開きます。11 種類のスキンが小さな絵で並び、クリックで適用（ウィンドウは開いたままなので順に試せます）。下にウィンドウサイズ：「画面に合わせる」または 70–120%。選択はプラグインとアプリのすべてのコピーで記憶されます。最後のタイルが**「マイ」**で、横に「自分の色」ブロック（背景、カード、入力欄、文字、アクセント、ヒント）があります。色をクリックすると選択画面が開き、ほかの色合いは自動で決まります。最初のクリックでは、今使っているスキンが出発点になります。



スキンウィンドウ。

サイトに新しいバージョンがあると、名前の下に「⬆ アップデート：…」のリンクが出ます。

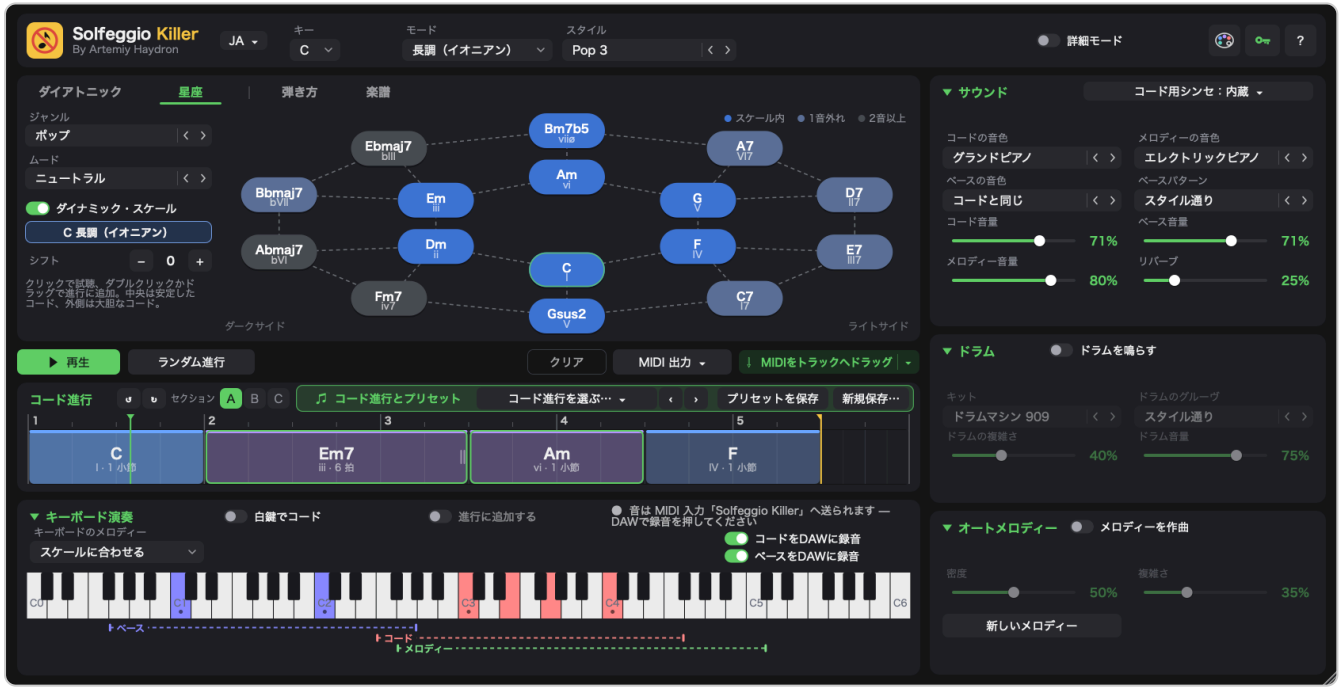
詳細モード：ヘッダーのパレットボタンの左にあるスイッチ。オフ：基本だけ。オン：「五度圏」「カデンツ」「キー外」タブ、拍子、「＋ 休符」、「DAWと一緒に再生」、音量、スウィング、ヒューマナイズ、ドラ

ムとメロディーの複雑さ、キーボードのオプションとヒント。進行の下のカードはタイトルのクリックで折りたためます（▾ / ▸）。

5. コード

どこでも：クリックで試聴、ダブルクリックで最後に追加、ドラッグで挿入または置き換え。タブ名にマウスを置くとヒントが出ます。

- **ダイアトニック**：7つの度数 × 5種類（Sus2、トライアド、Sus4、セブンス、ナインス）。黄色の枠は次に合うコード、緑の枠は今鳴っているコード。
- **星座** — トニックの周りに 16 のコード：中央に安定した 6 つ（下にトニック、上に平行調）、外側に大胆な 10 個。左は暗め（マイナー、借用和音）、右は明るめ（メジャー、セカンダリー・ドミナント）。 **ジャンル**（ポップ、ロック、R&B、ジャズ、ローファイ、エレクトロニック、シネマ、アンビエント、ヒップホップ、ゴスペル）でトライアド／セブンス／ナインスが決まり、**ムード**（明るい、ニュートラル、暗い）で外側のコードが決まります。 色：青 — すべての音がスケール内、灰青 — 1音外れ、灰 — 2音以上。ダイナミック・スケールがオンなら最後にここで弾いたコード、オフなら曲のキーが基準です。「–」／「+」で星座を半音ずつ移動。
- **五度圏**、**カデンツ**、**キー外**（詳細モード）：円に並ぶメジャーとマイナー、20のカデンツ、セカンダリー・ドミナント、借用和音、特別な響き、他のキーへのブリッジ。
- **弾き方**：伴奏の音が鍵盤に落ちます。またはギターのコードフォーム（‹ › でネック上の別のフォーム）。 右のメニューで楽器を選べます：ピアノ、ギター、ウクレレ、ベース（ベースラインをタブ譜と指板で）。
- **楽譜**：進行全体を五線譜で。「楽譜を保存」：PNG、PDF、MIDI。



星座タブ。

6. コード進行とその上のボタン

↺ ↻ — 元に戻す / やり直す（⌘Z / ⇧⌘Z）。**A B C** — 曲のセクション（Aメロ、サビ、ブリッジ）。再生中は新しいセクションが次の小節線から始まります（待っている間ボタンが点滅）。DAW のようなトラック：コードを別のコードの上にドラッグすると入れ替え、端へドラッグすると移動。右端をドラッグで長さ。Delete または × で削除。右クリック：種類、転回形、ベース、長さ。

コード進行とプリセット — 進行の上の緑の帯：メニュー、すべてを順に切り替える ‹ ›、「プリセットを保存」（開いている自分のプリセットに変更を書き込みます。既成の進行のあとなら名前を尋ねます）と「新規保存…」。メニューの中身：

- **ヒット曲トップ5**：ポップスで何十年も使われてきた進行。
- **ムード**（21）と**ジャンル**（19、「ジャズ・スタンダード」「スピリチュアル・ジャズ」を含む）：あなたのキーで400以上の進行。「検索とお気に入り…」でコードや名前から検索。
- **オーディオから**：「オーディオファイルからコード…」と、DAW では「サイドチェインからコード」（7章）。
- **User**：あなたのプリセット（曲全体：進行、音色、スタイル、ノブ）と「プリセットを保存…」。

ランダム進行は和声の規則で進行を作り、**クリア**はすべてを削除します。

「転調先…」とセクション

コードを右クリック →**「転調先…」**：上で転調先（属調、下属調、平行調、同主調、半音・全音上、他のセクションのキー、任意）を選び、下に実際のコードでつなぎ方が並びます（C → G: Am → D7 → G、Am7 → D7 → G、F#dim7 → G…）。▶ で試聴、「挿入」で選んだコードの後に入り、新しい主和音に転調が付きます。

A / B / C を右クリック: 他のセクションからすべて/コードだけコピー（このセクションのキーで）、入れ替え、セクションのキー変更、「このセクションへのつなぎ」、空にする。

転調と一時転調

コード進行のコードを右クリック:

- **ここから転調** — このコードから別のキーへ: 属調、下属調、平行調、半音・全音上、「このコードを主音に」、または任意のキーとモード。コードの響きはそのままで、パレット、鍵盤、白鍵、オートメロディが新しいキーに切り替わります。コードに「→ G」の旗が付き、パレットの上に「ここのキー: G」と表示されます。
- **このコードへ一時転調** — 直前にそのキーへ短く寄り道: ドミナント（G7 → C）、ii – V（Dm7 – G7 → C）、減七の導和音（B°7 → C）、ドミナントの連鎖（D7 – G7 → C）。新しいコードは前のコードの後半を使い、ループの長さは変わりません。
- **ここから転調アップ** — このコードから全体が半音または全音高く（最後のサビ）。新しいキーのドミナントを前に入れることもできます。

転調を外すには「ここから転調 → 転調を外す」。転調はプロジェクトとプリセットに保存され、A / B / C のバリエーションごとに別々です。

7. オーディオからコード

1.2.5 の新機能：DAW から直接ファイルを — Logic のトラックのリージョン、Ableton のクリップ、Reaper の アイテムをウィンドウにドラッグ。**MIDI ファイル**も使えます：テンポはファイルから、コードは音符から （11th・13th コードも：11、m11、13、maj13、m13、7#11、maj7#11。ふだん弾かれる 5度なしの形でも）。 複数のファイルを落とすと、最初のオーディオまたは MIDI ファイルを使います。

オーディオファイルをプラグインのウィンドウにドロップします（または「コード進行とプリセット → オーディオファイルからコード…」）。プラグインが聴いて見つけるもの：

- **テンポ**と拍（アプリはテンポを合わせます。DAW ではプロジェクトのテンポが優先）。
- **キーとモード**（メジャー / マイナー）。
- 小節ごと（または半小節ごと）の**コード**。セブンスが聞こえればセブンス付き。曲が同じ 4〜8 のコードを繰り返していれば、進行はそのループひとつ（ひと回りの頭から）。コードの違うパート（A

メロ、サビ、ブリッジ）があれば、セクション A・B・C に振り分けます。サンプルや MIDI リージョンはファイルの頭から始まります。

ファイル名にテンポとキーがある場合（Splice のサンプルのように「…_126_F#m.wav」）、そこから取ります。コードのループ（鍵盤、ギター、パッド）が最も得意です。ボーカル入りの密なミックスや単音のメロディーは間違えることがあります — 進行を手で直してください。

テンポが半分や 2 倍に聞き取られたとき（遅い曲やとても速い曲で起こります）は、ヘッダーの拍子の隣にある「×2」か「÷2」を押してください。コードの小節数が 2 倍や半分になり、アプリではテンポも一緒に変わるので、曲の聞こえ方は同じです。

サイドチェインから

すでに DAW にあるトラックは書き出す必要がありません。プラグインのサイドチェインに送り（Logic — プラグインウィンドウ上部の「Side Chain」メニュー、Ableton — デバイスの「Sidechain」、Cubase — サイドチェインボタンとトラックからのセンド）、「コード進行とプリセット → サイドチェインからコード」を選んで再生を始めます。プラグインは次の小節線から8小節（または「完了 — コードを探す」を押すか DAW を止めるまで）聴き、プロジェクトのテンポを使って、キーとコードを進行に入れます。

8. 自分のスタイル

スタイル一覧 →「＋ 自分のスタイルを作る…」（または「✎ 自分のスタイルを編集…」）。グリッドは16分音符で1小節または2小節、太線は小節線です。

行	鳴らすもの
コード全体	コードのすべての音を同時に
音 4 … 音 1	コードの1音（1 = 最低音）：アルペジオや分散形
音 3（1オクターブ下）	3番目の音を1オクターブ下で
ベース：オクターブ、5度、ルート	ベースパート

クリックで打点、右へドラッグで長く（ハウスのように拍をタイで延ばす）、打点をクリックで削除、右クリックで弱く。エディタの「▶ 再生」で描きながらスタイルを鳴らせ、緑の線がグリッドを進みます。「保存」でスタイル一覧の一番上の User に入り、選んだ自分のスタイルはプロジェクトにも保存されます。



スタイルエディタ。

9. サウンド、ドラム、オートメロディー

サウンド：コード、メロディー、ベースそれぞれの楽器と、ベースパターン（36パターンまたは「スタイル通り」）。グループ：鍵盤、ギター、ストリングス、アコーディオンと管楽器（フルート、アルトサックス）、金管（トランペット、ミュート・トランペット、フレンチホルン、トロンボーン）、クワイアとパッド、シンセ、ビンテージシンセ。 音量とリバーブは常に表示。詳細モードではさらにスウィング、「ヒューマナイズ：タイミング」 — 各音を少し早く・遅く、最大で約16分音符 — と「ヒューマナイズ：強さ」 — 各音を少し強く・弱く。

コード用シンセ ▾（サウンドカードの右上）：内蔵の音色の代わりに、コード — と「コードと同じ」のときはベースも — をコンピュータの任意のインストゥルメント・プラグインで鳴らせます：Serum、Vital、Kontakt など。Mac では AU インストゥルメントがメーカー別にすぐ一覧表示され、Windows と Linux では「このコンピュータのシンセを探す…」で VST3 を検索します。「ウィンドウ」でシンセを開いてプリセットを選びます。シンセとその設定は曲と一緒に保存され、「内蔵サウンド」で元に戻ります。

ドラム：キット — アコースティック、ローファイ（「lofi hip hop radio」）、ドラムマシン 808 と 909（初期設定は 909）、Pop、Hip-Hop、IDM。グルーヴ —「スタイル通り」または28種類から（ポップ、ロック、ハウス、テクノ、ブレイクビーツ、2ステップ・ガラージ、ブーンバップ、ローファイ、トラップ、ボサノバ、ジャズ・スウィングなど）。

オートメロディー：「メロディーを作曲」で進行の上にキーに合ったメロディーを書き、「新しいメロディー」で別のものを。詳細モード — 密度、複雑さ、メロディーのリズム、「固定」する小節。

自分のメロディー：「メロディーのリズム」の一覧（詳細モード）で「＋ 自分のメロディーを作る…」を選びます。 横は16分音符（1・2・4小節）、縦はコードのルートからの音階の度数：1・3・5 がコードの音、「↑」「↓」は1オクターブ上と下、一番下の「自動」の行は高さをオートメロディーに任せます。 空いたマスをクリック：音符（すぐに鳴ります）。音符は上下左右にドラッグでき、左右の端をドラッグすると長く／短くなります。音符をクリック：削除、右クリック：アクセント、スペース：再生／停止。 メロディーはコードごとに自動で移り、キーから外れることはありません。「新しいメロディー」でオートメロディーの新しいメロディーがグリッドに描かれ、すぐに編集できます。 「保存」で名前を入力すると、メロディーがこの一覧の「マイメロディー」に入ります。選んだメロディーはプロジェクトにも保存されます。



メロディーエディタ。

10. 演奏、録音、MIDI

メロディーのモード：スケールに合わせる、コードトーンのみ、白鍵 → スケール または コード、そのまま。鍵盤の下の点線の帯は、ベース、コード、メロディーの音域です。

白鍵でコード：このスイッチをオンにすると、どのオクターブのド レ ミ ファ ソ ラ シ も、押している間キーの I–VII 度のトライアドを鳴らし（黒鍵はメロディーのまま）、最後に弾いたコードがパレットで光ります。「進行に追加する」で、そのコードを進行の最後に追加します（↺ で元に戻す）。アプリではパソコンのキーボードでも弾けます：A S D F G H J K が白鍵、W E T Y U O P が黒鍵、Z / X でオクターブ、スペースで再生 / 停止。

DAW への録音（Mac と Linux の AU と VST3）：「コードをDAWに録音」と/または「ベースをDAWに録音」（オートメロディーの「メロディーをDAWに録音」も）をオンにして録音を押します。コードはチャンネル15、ベースは16、メロディーは14。ベースだけなら「ベースを録音」だけをオンに。トラックの MIDI 入力はすべての入力を受け付ける設定にしてください。

MIDIをトラックへドラッグ：ボタンをトラックにドラッグします。右の「▾」で、すべて、またはコード、ベース、メロディー、ドラムだけを選べます。

MIDI 出力（「MIDI 出力 ▾」ボタン。アプリでは「ファイル ▾」の隣）：各パートを音符として他の楽器へ。モード：「オフ」（初期値）、「MIDI とサウンド」、「MIDI のみ」。「送るもの」でコード、ベース、メロディー、ドラムを個別に選べ、パートごとにチャンネルがあります（初期値は 1、2、3、10）。DAW で目的のチャンネルを目的のシンセに送ってください。アプリでは各パートに「デバイス」もあり、コンピュータの任意の MIDI 出力（外部シンセなど）を選べます。

アプリ：「● 録音」は音声（WAV）と音符（MIDI）をパートごとのトラックで保存。「ファイル ▾」— プリセット、MIDI、オーディオと MIDI の設定。

11. ライセンス

10日間、制限なしで無料。solfeggiokiller.com で支払うと（ルーブルまたはドル）、キー `SK-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX` がメールで届き、3台のコンピュータで使えます。ヘッダーの鍵ボタンでアクティベート（イン

ターネットは1回だけ必要)。移すときは「このコンピュータを解除」かサイトのアカウントで。インターネットがなければ「オフラインでのアクティベート」ページを使ってください。

12. トラブルシューティング

問題	解決方法
プラグインが一覧にない	フォルダを確認し、隔離属性を外して再スキャン。Logic には AU が必要です。Windows：1.3.2 のインストーラーで再インストール — VST3 は C:\Program Files\Common Files\VST3 に入ります
設定が見つからない	「詳細モード」をオンにするか、折りたたんだカードを開く
進行が鳴らない	「DAWと一緒に再生」（詳細モード）と「進行を鳴らす」をオンにして再生
進行が違うコードから始まる	「DAWと一緒に再生」の横の「▾」:「プロジェクトの小節どおり」 — DAW の 1 小節目がいつも最初のコード（4 コードなら 5 小節目もまた最初のコード）;「DAW を再生するたびに最初のコードから」 — どこで再生を押しても
コードが録音されない	「コード / ベースをDAWに録音」をオンに。トラックはすべての MIDI 入力を受け付ける必要があります
オーディオからのコードがずれる	コードのループが最も得意です。進行を手で直してください

サウンド：Salamander Grand Piano（Alexander Holm）と FluidR3 GM（Frank Wen）、CC BY 3.0。ストリングスと金管 — VSCO 2 Community Edition（Versilian Studios、CC0）。アルトサックス — University of Iowa Musical Instrument Samples。チェレスタ、ギター、アコーディオン、コントラバス、ドラム — CC0（Freesound、FreePats、Karoryfer、D. Smolken、Virtuosity Drums）。Rhodes とオルガンベース — プラグイン独自のモデル。